

平成29年度蕪崎北東小学校校内研究 研究概要

1 研究主題・副主題

自ら学び、考え、表現できる児童の育成

～国際理解教育における、伝え合い、学び合う活動を通して～

2 研究主題・副主題設定の理由

(1) 研究主題設定の理由

国際化、情報化、価値観の多様化など、流動化する現代社会の中では、児童一人一人が主体的に考え行動し、状況の変化にしなやかに対応し、たくましく生きていくことが求められている。この流動化する時代、複雑化する社会状況に柔軟に対応していける人材を学校教育の初等教育段階から育成していく必要がある。

平成18年、教育基本法が改正され、その理念は、「生きる力」という言葉に象徴されている。「生きる力」とは、確かな学力、豊かな人間性、たくましく生きる健康・体力のバランスのとれた総体のことである。

文部科学省「新学習指導要領（平成29年3月31日公示）第1章総則 第1の3」では、学校教育全体、各教科等の教育活動の充実を図る際、偏りなく実現できるようにすることとして

- (1) 知識及び技能が習得できるようにすること。
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること。

の3つが掲げられた。これらのことから、児童の現状や発達段階等をふまえながら、基礎的な知識・技能の習得をするとともに、思考力、判断力、表現力等、そして、学習に意欲的に取り組む力、多様な人々との協働が重視されていることがわかる。

外国語（英語）教育の推進においては、文部科学省は、「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画（平成25年12月）」を公表し、初等中等教育段階からのグローバル化に対応した教育環境作りを進めている。さらに、「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」(平成26年9月26日)において、改革を要する背景の1つとして「今後の英語教育改革においては、その基礎的・基本的な知識・技能と、それらを活用して主体的に課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成は重要な課題」としている。

以上のことから、小学校段階において、外国語についての基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせること、主体的に課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成をしていくことが重要であると言える。また、積極的に外国語を使ってコミュニケーションを図る児童や、日本語の特徴やよさに気付く児童を育てていくことが大切と言える。

また、本校の学校教育目標は「心身ともにたくましく豊かな人間性をもつ子どもの育成 ○進んで学ぶ子ども ○豊かな心をもつ子ども ○じょうぶな子ども ○ふるさとを愛する子ども」である。目標の一つである「進んで学ぶ子ども」を目指して、今年度の研究も行っていきたいと考えた。

これらのことを受けて、本年度の校内研究では、昨年度の研究主題を引き継いで、「自ら学び、考え、表現できる児童の育成」と研究主題を設定する。

(2) 研究副主題設定の理由

①本校における「外国語教育強化地域拠点事業」との関わりについて

蕪崎市では、平成27年度より文部科学省の委託事業「外国語教育強化地域拠点事業（平成28年度までは「英語教育強化地域拠点事業）」の指定を受け、県の方針のもと事業を進めてきた。この事業においては、「小学校において、英語教育が早期に実施された場合の教育課程の在り方、及び中学校・高等学校への円滑な移行と教育目標・内容の高度化、各学校段階を俯瞰した系統性の

ある教育課程を研究開発する。」ことを研究の課題と設定し、「外国語教育強化地域拠点事業連絡協議会」において連絡を取りながら韮崎市全体で取り組んできた。

さらに、「1 小学校第1学年，第2学年で国際タイムを必要時間取り入れれば，第3学年，第4学年の外国語活動へ円滑に移行できるであろう。2 小学校第3学年，第4学年の外国語活動を週1時間確保し，児童の発達段階及び他教科の学習内容を考慮しながら，共通教材Hi, friends! を活用することで，指導法や評価の一貫性が保たれコミュニケーション能力の素地が育成されるであろう。3 第5学年，第6学年において，小学校3，4学年での外国語活動をもとに，中学校との円滑な接続を視野に入れ，文部科学省が作成した補助教材や県が考案した学習到達目標（CAN-DO リスト）を使い，学習内容や指導方法，評価方法を検証することで，4領域（聞くこと及び話すこと，読むこと及び書くこと）における能力が高まるであろう。」という仮説のもと，研究を進めてきた。

昨年度行った本校の「外国語活動・英語科についてのアンケート」において，中学年アンケートの中で「外国語を嫌いになり，英語を進んで用いない児童が見られる。低下した項の一つに，アルファベットを丁寧に書く項があり，書く活動は難しく，ゆっくりとした指導が必要である。また，英語での指示や単語が理解できず，集中して聞く態度が身につかなかったため，人の話を意識して聞く項も低下したと考えられる。」という教師の指摘もあった。本校教育課程の「国際理解教育」においては，「外国語活動（中学年）」や「外国語（英語科）（高学年）」のない低学年でも「国際タイム」として英語にふれ，親しむ時間を実施（年間10時間程度）している。しかし，本校の低学年「国際タイム」から中学年の「外国語活動」への移行に無理があったり難しさがあったりすることがないように配慮しながら進めたい。

そこで，「外国語教育強化地域拠点事業」においての研究開発の意味からも，また，前述したように外国語活動・外国語科への円滑な移行をめざすためにも，本研究では全学年で取り組める「国際理解教育」として広めて，低学年「国際タイム」，中学年「外国語活動」，高学年「外国語科」での研究を行っていく。

②研究副主題設定の理由について

昨年度までの研究において，授業を中心とした学習活動の中で，言語，ワークシート，メモ，カード，ジェスチャー，絵，話し合い活動，コミュニケーション活動，またはこれらを複合させた様々な言語活動を行いながら，自分なりの考えを表現させ，それを他者にも理解してもらうことを意識させながら，「伝え合い」「聞き合う」活動を取り入れてきた。そして，自分の考えを振り返り，加除修正，深化させ，確かな考えとつながる「学び合い」になるような活動を意図的，継続的に取り入れてきた。「伝え合い」「学び合い」を通じた昨年度までの実践を通して，自分の考えを出すことやその考えを認められていると感じている児童が増え，一定の成果を得られた。

「新学習指導要領 第1章総則 第3 教育課程の実施と学習評価」では，「1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」「2 学習評価の充実」があげられている。また，確かな学力の向上について本県では本年度指導重点の一つとして，「主体的・対話的で深い学び」を目指している。これらのことは，本校が昨年度まで取り組んできた副主題と深くかかわっていると考えられる。

そこで，研究副主題を「～国際理解教育における，伝え合い，学び合う活動を通して～」と設定した。本校の昨年度までの研究で得た成果を活用しながら，今年度は特に国際理解教育（国際タイム，外国語活動，外国語科）の授業において，「伝え合うこと」「学び合うこと」で「自ら学び，考え，表現できる児童」を育てる研究をすすめていく。「外国語教育強化地域拠点事業」において，中学年の「外国語活動」では，「聞くこと」「話すこと」を中心とした活動を行う。高学年「外国語科」では「聞くこと」「話すこと」に「読むこと」「書くこと」の態度を育成する指導も行う。低学年の国際タイムにおいては，教育課程内の計画に沿って，上の学年の学習や活動につながる活動を国際理解や英語遊びを通じて行っていく。

こうした全校での国際理解教育の授業やコミュニケーション活動を通して，言語への気付きや考えを伝え合う方法を学ぶことができると考える。学級や班などの集団での「伝え合う」学びを成立させるためには，日頃の学級経営の充実や学習規律の確立，コミュニケーション能力の育成も必要である。この伝え合い，学び合う活動を本年度校内研究の重点として，研究副主題を設定した。

		<ul style="list-style-type: none"> ・アイコンタクトをしながら ・友達や相手の反応を見ながら 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイコンタクトをしながら ・友達や相手の反応をしながら ・自分なりに考えて反応する。
副主題 学び合う	伝え合う活動を通して、外国語の楽しさやコミュニケーション方法に気付く。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しむ。 	伝え合う活動を通して、他者との関わりの中で、自分のわからなかったことがわかったり、外国語の楽しさや表現のよさを知ったり、学びたい意欲や思い、考えを持ったりすること。 <ul style="list-style-type: none"> ・リズム、特徴を知る 	伝え合う活動を通して、コミュニケーション能力を高めるための表現や方法を知ったり、学びたい意欲や思い、考えを持ったりすること。授業のはじめに前時とのつながりを確認し、授業の終わりに付加や修正をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・できることを増やす。
○様々な教育活動の展開 …例) 児童会本部や委員会活動など、日常目にする掲示物、学年への巡回掲示、耳にする放送、朝の会や帰りの会など学級活動や学級指導等、他教科、道徳等			

(4) その他の関わり

○各教科，家庭学習等での取組

本校でこれまで培ってきた学習に対する基本姿勢は崩さず，継続して取り組んでいきたい。

また，確かな学力の向上については，家庭学習の習慣の確立と，規則正しい生活習慣習得によるところも大きい。葦崎市が行っている「わが家の取り組み」を今年度も継続実施し，家庭学習や基本的な生活習慣の確立・定着をねばり強く家庭に呼びかけていく。確かな学力の向上に向けて，各家庭でしっかりと家庭学習の計画を立ててもらい，各家庭に協力をお願いして進めている。

3 研究仮説と検証方法

研究仮説

国際理解教育（国際タイム，外国語活動，外国語科（英語科））において，伝え合い，学び合う活動を意図的，継続的に取り入れることにより，児童一人一人が，外国語を学び，他者（人，国，文化）を理解する中で，進んで外国語を用いて，工夫してコミュニケーションを図ろうとする能力や態度をより効果的に育むことができるであろう。

仮説の検証方法

- ①外国語アンケート（6月，12月に2回実施。比較分析する。），児童が書き残した振り返りカード（学習感想），児童自身の自己評価として，変容を児童本人が気付く機会を持たせる。
- ②CAN-DOリスト，パフォーマンス評価等から，児童の力をはかる
- ③①の記述内容や②の結果から，教師は児童の変容を把握したり授業の参考にしたり，評価に生かしたりすることで，授業実践前と実践後の比較検討や内容分析，研究仮説の検証を行う。
- ④②③の分析をもとに，今年度の研究内容，方法，重点などについての成果と課題を見出す。

4 研究内容

今年度の研究内容の概要

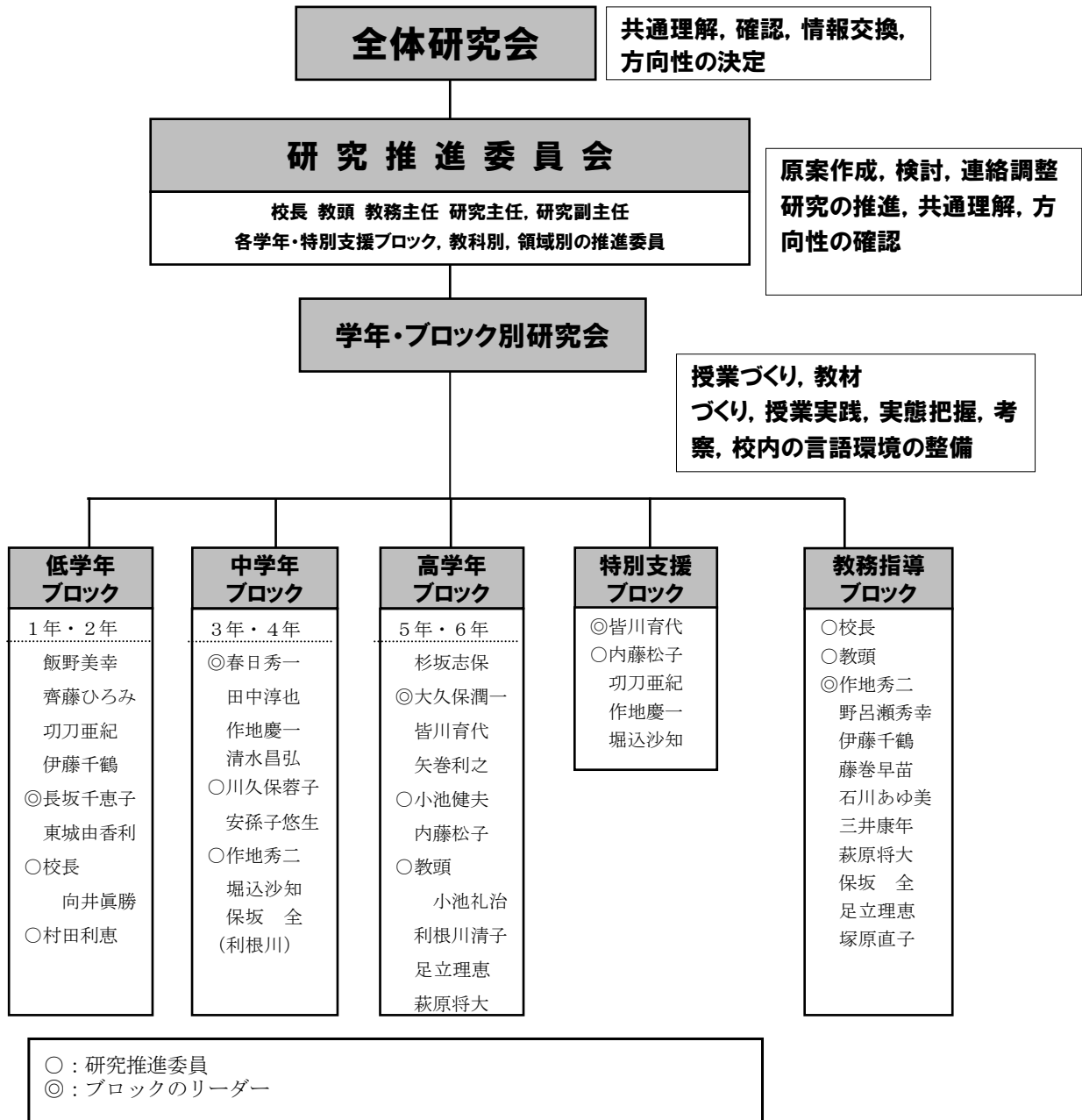
	国際理解教育についての校内研での取組	他教科，その他での取組・家庭での取組
理論学習	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度の研究成果を引き継ぎ，授業のあり方を共通理解する。 ○本校のこれまでの実践を共通理解する。 ○文部科学省，国立教育政策研究所，山梨県教育委員会，先進校の公開研究会への参加，教育実践事例や資料を参考にしながら，研究テーマに関する理論や実践のあり方を学習する。（文科省，国研，県教委，他校研究紀要，書籍等の資料を使って） 	<ul style="list-style-type: none"> ○宿題や自主学習などの家庭学習を習慣化させるために，4月に家庭学習について学校から提示して，協力していただく。 ○葦崎市の「わが家の取組」や，本校の読書の取組の継続と徹底を図り，家庭学習を充実させる。

授業づくりと実践	<p>○外国語・外国語活動，国際タイムにおける児童の実態をアンケート等の結果から把握する。（6月と12月の2回）</p> <p>◎研究授業を設定し，他ブロックに授業を公開し，授業場面を中心に授業の実際場面からお互いに学び合う。</p> <p>◎公開研究会において，授業を公開し，学び合う。</p>	研究授業	○各クラスの学習規律を整え，学習集団づくりの取組を積み重ねる。
	<p>○自分の思いや考えをしっかりとともたせる取組を継続する。</p> <p>◎自分の思いや考えなどを言葉やジェスチャー，絵などで表現したり，他者に伝えたり，学び合ったりする場を設け，コミュニケーション能力や態度を育てる活動を継続して実践する。</p> <p>（ホワイトボード，ネームプレート，ワークシート，話し合い，ペアワーク，ICT機器の利用など）</p> <p>（学習感想，振り返りカード，CAN-DOリストなど）</p>	各学級	<p>○教師の授業の流れ，発問の仕方，板書の仕方，児童の問い，発言の仕方などを共通理解，共通実践する</p> <p>○朝の学習の時間（月・木）を基礎・基本を学ばせる機会として大切にし，基礎的・基本的な知識・技能の育成と定着に努める。</p>
	○道徳，学級活動等や，児童会，日常目にするものなどで，国際理解教育に関わる活動に積極的に取り組み，児童の意欲を高める。	全体の活動	
研修	◎教師の英語研修として，校内研究会で10分程度の「ちょこっと英語」を設け，JTEや各学年が担当して実際の授業を想定して紹介し，教師も学び合う。内容は，クラスルームイングリッシュやゲーム，スモールトーク，絵本の読み聞かせなどを行う。		○他の研修や他校の公開研究会へ参加し，教師自身の力量を高める。
評価	<p>◎校内研究の取組を振り返り，本年度の成果と課題を明らかにし，次年度の方向性を検討する。</p> <p>◎授業の中でのワークシート，振り返りカード，児童の学習感想，自己評価，CAN-DOリストの使用など評価に関する実践を行い，児童の実態把握，児童理解に努める。</p> <p>（PDCAサイクルを意識する。）</p> <p>○児童の実態を児童のアンケートから把握する。</p> <p>○1年間の実践成果や課題をふまえて，次年度の教育課程に反映させる。（伝え合い，学び合う活動ができたか。）</p> <p>◎ブロックでの取組，一人一実践（国際理解），日常の取組を成果としてまとめる。</p> <p>○研究成果や課題を共有し，次年度の教育実践に生かしていく。</p>		<p>◎一人一人が自分自身の授業改善を行い，担当学級・学年の学力向上を図る。</p> <p>○学力テストを行い，データを2月下旬に分析し，昨年度の学力テストデータと比較して，児童の実態がどのように変化したのか，または，しなかったのかを検証し，次学年に引き継ぐ。</p>

5 研究方法

- ・公的機関等での研修，文献資料，視聴覚資料，先行研究事例などをもとに，研究主題，副主題に関する実践の在り方を学ぶ。
- ・研究主題・副主題に関わる授業を各ブロックが提案し，その授業創造の過程でブロックメンバーがお互いに学び合う。授業者だけに負担をさせるのではなく，ブロックメンバー全員で授業のアイデアを出し合い，質の高い授業を創造し練り上げていく。（6～8月）
- ・他学年の授業実践を研究授業という形で見合い，お互いに具体的な授業実践や授業場面から，学習を深めていく。
- ・公開研究会に向けて，教材解釈，教材化，授業化，評価など，一連の授業づくりを通して，各ブロックが研究テーマに迫る学習を進め深めていく。
- ・個々の教育実践を見直し，自己の指導力と評価力を具体的に伸ばしていく。
- ・公開研究会においては，外国語，外国語活動，国際タイムの授業3本（3学年）を実践，公開し，他校の先生方と共に学んでいく。
- ・評価の研究実践として，振り返りカードや学習感想，ワークシートなど児童理解や評価，実態把握に関わる取組を全員が行っていく。その際，中・高学年ブロックにおいては，県版CAN-DOリストの使用やパフォーマンス評価を行うようにしていく。低学年ブロックにおいては，それにつながる評価や方法について，検討していく。
- ・担当学年や学級の実態や特性を各担任がしっかりと把握し，実態に合った指導法で実践を積み重ねる。
- ・研究仮説の分析をもとに，次年度の研究内容，方法，重点などの方向性を検討していく。
- ・校内研究の成果を教育課程に反映させ，次年度の教育活動につなげていく。

6 研究組織



○全体会・研究推進委員会

- ・全体会では, 校内研究の共通理解, 確認, 情報交換, 方向性の決定などを行う。
- ・研究推進委員会は, 原案作成・検討, 連絡・調整, 研究の推進, 方向性の検討などを行い, 必要に応じて開く。

○学年・ブロック別研究会

- ・学年ブロック別研究会は, 発達段階や特性が似通っている子どもたちを受け持つ教師によるグループ研究とする。
- ・本校には, 特別な支援が必要な児童が在籍し, 学年や発達段階も様々であるので, 個に応じた手立てが必要である。そのため特別支援ブロックを設けつつ, 学年ブロックにも所属する。
- ・各ブロックのリーダーは, 低, 中, 高学年, 特別支援, 教務指導部の各ブロックの研究推進委員のうちの1名が行う。
- ・教務指導部では, 保健教育, 食育, 図書館教育という各指導領域で, 各学級と連携しながら, 児童に対してどのような指導を行っていくのか, どのような実践ができるのかを研究し, 実践していく。また, 学力テスト等の運営, 校内環境の整備, 公開に向けての整備整頓を行い, 他ブロックにも必要に応じて所属する。

7 研究経過

回数	研究日	研究内容・研究形態		
		全体会	ブロック研	研究推進委員会
第1回	4月7日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度校内研究の概要説明, 成果と課題の確認 ・本校児童の実態の共通理解 ・本年度の研究の方向性, 全体計画の提案 ・研究スケジュール, 組織等の提案 		
第2回	4月12日(水) 4月14日(金) 職員会議内	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の研究主題・副主題の決定 ・家庭学習「わが家の取り組み」実践に向けて ・指導主事招聘の申請, 研究計画の提出 		
随時	4月下旬～5月 随時	<ul style="list-style-type: none"> ・研修申し込み・アンケート回答について 		
第3回	5月22日(月) 職員会議内	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の研究の全体計画の決定, 確認 ・研究スケジュール, 組織等の確認 ・本年度の研究の全体計画の確認 ・外国語教育強化地域拠点事業について ・公開研究会, 研究授業に向けて (授業者の検討, 決定) 		
第4回	6月12日(月)	理論学習・実践研究 <ul style="list-style-type: none"> ・他校, 先進校等の実践, 学習会 ・次回研究授業に向けて ・ちょこっと英語①: 6年, 4年 (インフォメーションギャップ・ミッシングゲーム) 		
第5回	6月26日(月)	理論学習・実践研究 <ul style="list-style-type: none"> ○提案授業について 外国語・外国語活動: 4, 5, 6年生 6月22日(木) 4年3組 29日(木) 5・6年生 ・「伝え合い, 学び合う授業」について ・ちょこっと英語②: JTE (クラスルームイングリッシュ・ほめ言葉) 		
第6回	7月24日(月) (午後)	13:30～ <ul style="list-style-type: none"> ・ちょこっと英語③: 4年 (クラスルームイングリッシュ・指示を出す時) ・研究全体計画の確認 (再確認) ・公開研究会に向けて第1回提案 ・指導案について ・授業についての共通理解と練り上げ ・実践したいこと ・研究会の持ち方等 	15:20～ <ul style="list-style-type: none"> ・公開研究会授業について ・指導案作成 ・教材研究・教材づくり ・掲示物作成修正 ・機器の確認 	16:20～ <ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会 ・公開に向けて ・かかり分担確認 ・第2回提案へ向けて確認
第7回	7月25日(火) (午後)	13:30～ <ul style="list-style-type: none"> ・ちょこっと英語④: 外国語主任 (キーワードゲーム) ・公開研究会に向けて係分担確認 ・学力テスト結果について 	14:00頃～ <ul style="list-style-type: none"> ・係分担確認 ・授業づくり ・指導案作成 ・教材研究 ・掲示物作成修正 ・機器の確認 	(なし)
第8回	7月31日(月) (午後)	13:30～ <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育学習会 	15:30～ <ul style="list-style-type: none"> ・外国語コーディネーターとの打ち合わせ会① 	終わり次第 <ul style="list-style-type: none"> ・8月21日, 28日, 9月11日の研究会の確認
第9回	8月21日(月) (午後) ※7月31日 から変更	13:30～ <ul style="list-style-type: none"> ・ちょこっと英語⑤: 3年 (シャッフルゲーム・フェイントリピートゲーム) ・学力テストについて ・公開研究会に向けて指導案提案検討①(校内) 	16:00頃～ <ul style="list-style-type: none"> ・指導案修正 ・教材研究 ・外国語コーディネーターとの打ち合わせ会② 	16:20～ <ul style="list-style-type: none"> ・8月28日, 9月11日の研究会の確認
第10回	8月28日(月)	15:20～ <ul style="list-style-type: none"> ・ちょこっと英語⑥: 6年 (スモールトーク) ・公開研究会に向けて ・指導案提案検討②・指導主事招聘 2年, 4年 義務教育課 教育指導担当 中学校教育スタッフ 副主幹・指導主事 桑畑秀子先生 		

		中北教育事務所 学校教育スタッフ 指導主事 板山俊彦先生 をお招きして
	随時	・全国学力学習状況テストの分析 本校児童（6年）の実態を分析し課題克服のための授業改善について確認を行う。
第11回	9月11日（月）	・公開研究会に向けて ・指導案提案検討③・指導主事招聘 6年 義務教育課 副主幹・指導主事 桑畑秀子先生 中北教育事務所 学校教育スタッフ 指導主事 古屋啓一 先生 をお招きして
第12回	10月6日（金）	・公開研究会に向けて ・指導案修正 ・掲示物・資料印刷・校内整備
職員会議	10月11日（水）	・係分担・研究会の持ち方等確認
終礼	10月13日（金）	・ちょこっと英語⑦：図書館主任（絵本の読み聞かせ）
第13回	10月16日（月）	・公開研究会について全体確認 ・各ブロック，公開研究会へ向けて準備 ・機器の確認（情報）
第14回	10月23日（月）	・各ブロック，公開研究会へ向けて準備 ・公開研究会について全体確認
公開研究会	10月25日（水）	葦崎市外国語教育強化地域拠点事業公開授業研究会 公開授業（第2学年・第4学年・第6学年）・全体会・学習会・分科会
第15回	11月27日（月）	・ちょこっと英語⑧：2年生（公開研究会の授業から） ・公開研究会の反省 ・研究紀要に向けて ・センター活用アンケート
第16回	12月11日（月）	・ちょこっと英語⑨：4年生（公開研究会の授業から） ・研究紀要について ・一人一実践について ・他校の公開研究会参加者による還元 ・今年度の研究のまとめと来年度に向けて（アンケート）
第17回	1月22日（月）	・外国語アンケート ・ 今年度校内研究の総括 ・研究紀要について ・学力テストの分析について
第18回	2月19日（月）	・ちょこっと英語⑩：2年生（授業参観における国際理解教育） ・外国語指導法について（矢巻先生による講義） ・ 今年度の校内研究の総括と来年度の校内研究について ・研究紀要完成に向けて
第19回	3月6日（火）	・紀要完成

8 校内研究に関わって 共通確認事項

(1) 葦崎北東小スタンダード

※太字は、外国語学習でも重点的に取り組んでいるもの

やまなしスタンダード	北東小スタンダード
①授業の始めに児童に授業のめあて（目標）を示している。	①授業の始めに児童に 授業のめあて(目標) を示し，次の流れで授業を進める。 授業過程 は、「つかむ」「予想する」「やってみる」「確かめる」「まとめる」「広める」とする。
②話し合い，討論，発表などの言語活動を効果的に取り入れる。	②操作活動，話し合い活動，又は複合させた様々な言語活動を取り入れる。 「 伝え合う活動 」や「 学び合う活動 」等 ※ ICT 器械， ホワイトボード を効果的に活用する。
③児童は，他の人の話や発表に耳を傾けている。	③児童は，他の人の話や発表に 耳を傾けている 。
④児童は，ノートをとっている。	④児童は，ノートをとっている。 ノートの役割 を，「自分の考えをまとめる」「学習内容をまとめる」「繰り返し練習する」と考えている。 鉛筆や色鉛筆，蛍光ペンの効果的な利用
⑤活用・探究など，学んだことを別の場面で使うようにしている。	⑤活用・探究など，学んだことを 別の場面 で使うようにしている。(①の「広める」)
⑥授業や単元のおわりに，児童がめあて（目標）を達成しているか評価している。	⑥授業や単元のおわりに，児童が めあて(目標)を達成しているか評価している 。
⑦家庭学習（宿題や課題）と授業が，有機的に結びついている。	⑦家庭学習（宿題や課題）と授業が，有機的に結びついている。 葦崎市学力向上の取組・・・「わが家の取組」「わたしの取組」家庭学習の手引き

(2) 国際タイム、外国語活動、外国語科における共通理解

①外国語教育に関わる環境整備

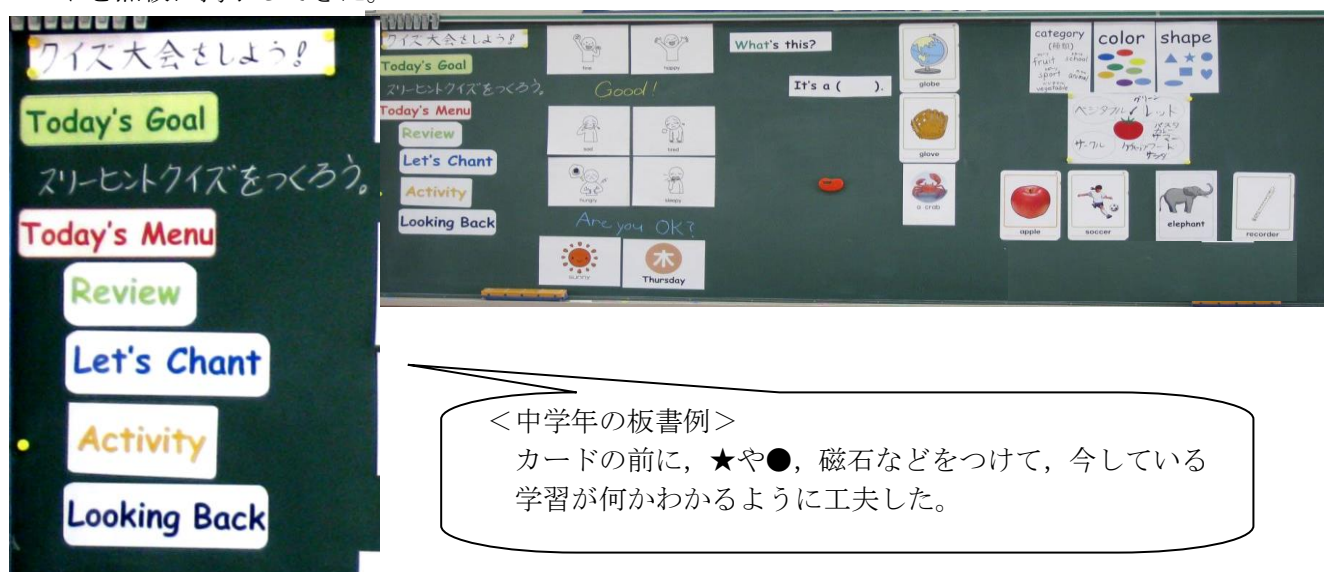
学校生活を通して、日常児童が目にする掲示物、耳にする放送、朝の会や帰りの会など学級活動や学級指導等で効果的に学習を促すようにしてきた。

②ALT、JTEとの連携

HRTとALT、JTEとの授業中の連携・分担については、事前の打ち合わせで確認してきた。HRTが授業計画を作成し、ミーティングの中で、役割や授業の流れを決定してきた。

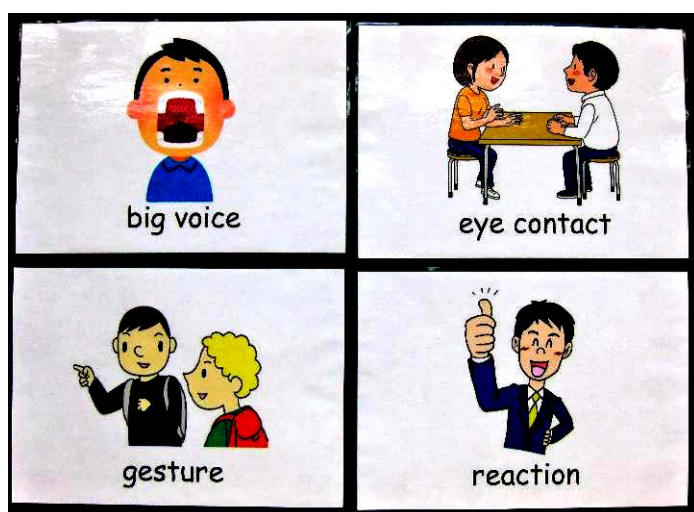
③授業の流れの表示・板書の工夫等

授業の流れがわかり、見通しを持って学習が進められるように、各ブロックの実態に合わせたカードを黒板に掲示してきた。



④コミュニケーション活動・伝え合う活動のための4つのポイント

授業中の伝え合う活動で、コミュニケーションを円滑にする、4つのポイントをカードにして、黒板に掲示し、児童に意識させるようにしてきた。各ブロックの実態に合わせて、カードを掲示してきた。



< 4つのカード >
主に中・高学年で掲示する。
低学年では、2年生から、
「big voice」「eye contact」を
使用している。

⑤学習の振り返り

各ブロックの実態に合わせた振り返りカード（ワークシート）を作成し、目標と照らし合わせて授業の終わりに使用してきた。評価の資料としても活用してきた。